



# 11月 令和5年11月1日 ちびっこの森通信 vol.78

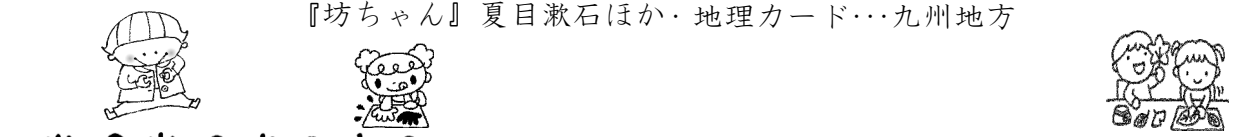
## ☆☆今月のテーマ☆☆

- ・秋の自然や恵みを喜び、関心をもって過ごしていく
- ・体調を整えて寒さに負けず、身体を動かしてしっかり遊ぶ

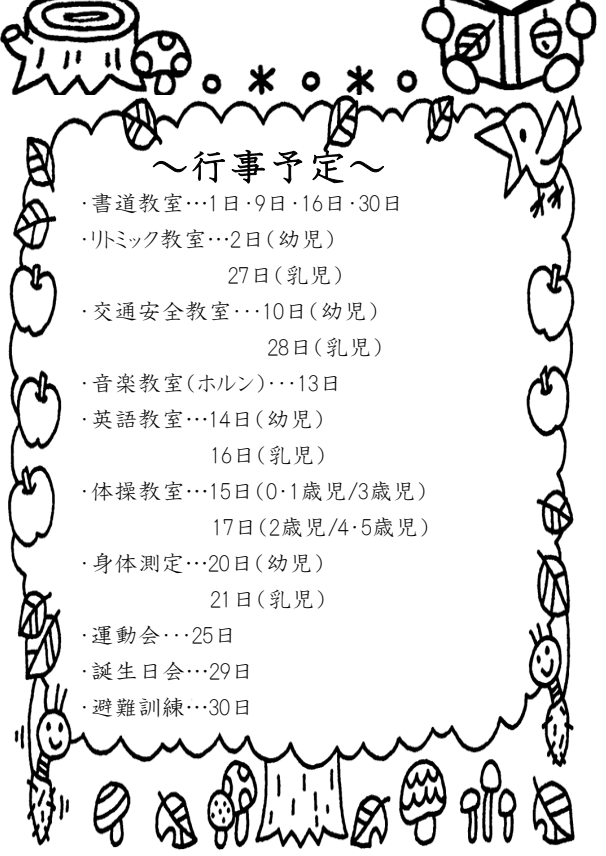


## ～今月の園内学習～

- ・足し算…3の段
- ・掛け算…3の段
- ・声に出して読みたい日本語…『坊ちゃん』夏目漱石ほか
- ・絵画カード…「竹村定之進」ほか
- ・歴史カード…「青木 昆陽」ほか
- ・国旗カード…「アルメニア」ほか
- ・地理カード…九州地方



## ♪今月の歌♪ ◇証城寺の狸ばやし ◆ともだちさんか



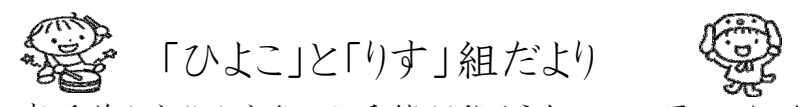
### ～行事予定～

- ・書道教室…1日・9日・16日・30日
- ・リミック教室…2日(幼児)
- 27日(乳児)
- ・交通安全教室…10日(幼児)
- 28日(乳児)
- ・音楽教室(ホルン)…13日
- ・英語教室…14日(幼児)
- 16日(乳児)
- ・体操教室…15日(0・1歳児/3歳児)
- 17日(2歳児/4・5歳児)
- ・身体測定…20日(幼児)
- 21日(乳児)
- ・運動会…25日
- ・誕生日会…29日
- ・避難訓練…30日

## ～保育のポイント～

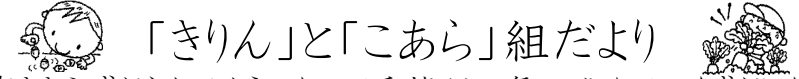
ローマの道徳哲学的エッセイストのM.T.ケケロはただ言語を話すだけではなく、よりの確に、またより美しく話したり、立派な文章を書くことを「より人間的なこと」と名付けていました。また、ドイツの哲学者カントの影響を受けたF・L・ニート・ハンマーはいつそう人間的になるように勉強することを「ヒューマニズム」と呼びました。ここで幼児の言葉の発達状況を振り返ると、生後数か月で泣き声の他に唇を使った無意味な発音「バブリング」をはじめます。その後も母親からの絶え間ない言葉の刺激を受け、**掘**まり立ちから歩行期には「バブバブ」などの発音をはじめると共に、言葉の理解ができるようになります。遺伝子によって、妥当な言葉刺激の環境があれば着々と言語脳が出来上がることが分かっています。1歳半頃の二語文、2歳過ぎの三語文といった具合に生後1～2年間の言語能力の発達には目を見張るものがあり、次第に物や色の名称の他に自分と相手という一人称や二人称の観念から三人称と言葉の概念が広がります。3歳では数の概念、5歳では左右といった抽象的な概念も出て来て、言葉でしゃべれるようになってきます。つまり言語の獲得とは、幼児が自分の考えを周囲にある言葉の中から探し出し、当てはめてゆく作業といえます。さらに**試**行錯誤を繰り返して脳の思考機構の中に高次の概念とそれを表現する構文等が獲得されていくと考えられています。これらの言語の獲得には脳の臨界期があるということや社会から隔離された(狼に育てられた)少女が11～13歳で発見された後、言語の獲得が極めて困難だった例からも理解できると思います。諺「鉄は熱いうちに打て」にあるように未就学期の(語りかけや絵本の読み聞かせなど)言葉の刺激環境の重要性を改めて理解していく機会になれば幸いです。

～わらべうたが子どもを救う(大島清著より抜粋)～



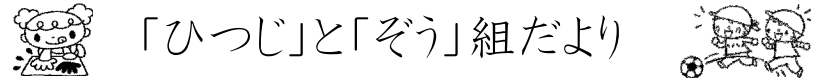
## 「ひよこ」と「りす」組だより

日照時間や昼夜の寒暖差から秋から冬へと季節が移ろう今日この頃。ひよこ組はハイハイを卒業し、室内はもちろん室外でもヨチヨチと歩きながら好きなところへ移動する姿が見られるようになりました。りす組はみんなで歩調を合わせて歩くのに誘導ロープを活用しています。室内で練習する時に手を離す子も少し前まではいましたが、戸外でお出掛けの際に誘導ロープを持つルールが定着し、周りの景色に目をやったり好きな歌を口ずさんだりと「秋」を満喫するようになってきました。運動会でもご覧いただければと思います。これから過ごしやすい季節ですので戸外で季節の移りかわりなどを感じていければと思います。



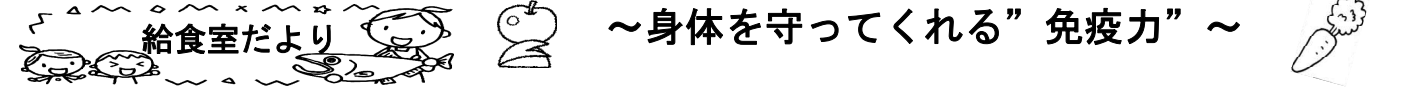
## 「きりん」と「こあら」組だより

朝夕はこのところ肌寒ささえ感じられるようになって季節が一気に進んでいく感じとなりました。きりん組は「スポーツの秋」を体現するように身体を動かすのが大好き。朝、「お外だよお～」の合図には排泄をはじめ、外出の準備もお手のものといった感じでこなし、近くの公園や神社をめざし誘導ロープを手にして歩調を合わせて向かいます。こどもたちの間で追いつ追われつの「追いかけてこ」が密かなブームのようで元気に動き回っています。一方、こあら組は幼児クラスではお初となる運動会に新たな思いで臨む意気込みが感じられ、そのメイン競技のかけこの練習に精を出しています。勝負ごとで「勝ちたい！」という気持ちが前面に出る感じもそうですが、お互いの頑張りを後押しするように「頑張れ～っ」と応援することも忘れていません。かけこ同様にダンスの練習にも熱がこもってきていますのでお楽しみになさって下さい。



## 「ひつじ」と「ぞう」組だより

このところの秋への衣替えシフトが一段上がってきた関係で木々の紅葉グラデーションが目を楽しませてくれる季節となりました。ひつじ組はそんな秋探しをするのに牛乳パックのポシェットを肩に掛け、公園に敷き詰められた彩り鮮やかな落葉や木の実集めをしました。こどもたちなりにそれら自然のもので「秋」を感じ、季節の移ろいに気づくことができたのは何よりでした。ぞう組は園生活の残り期間を意識してか、お互いの絆を確かめ、強固にするかのような関係性が見られるのが頼もしく感じられます。園最後の運動会ではフラフープを使ったお遊戯を披露する予定です。その練習中にお互いに「ここはこうよお～」と気づいたことを教え合う協同作業が着々と進んでいて、障害物競争などと併せて有終の美が飾れるように頑張っていますのでお楽しみに！



## 給食室だより

## ～身体を守ってくれる”免疫力”～

今年、春先から姿を現した酷暑が陰り、本来の乾燥した低い気温の気候が定着し始めました。そんな中では(急な)寒暖差疲労からくる体調不調による「免疫力の低下」でインフルエンザウイルスなどの感染症になりやすくなるのはご存知の通りです。その免疫力を維持していくのに必要なことは十分な(安息)睡眠と適度な運動、そしてストレスを溜めないことが必要です。私たちの免疫には、白血球、自律神経に腸内細菌などが有機的に機能し、ウイルスなどの病原体が体内に侵入するのを防ぎ、感染予防の効果を発揮してくれることとなります。これが有効に機能させるには①腸内環境を整え、②(体内に取り込まれる酸素も過剰だと害となることから)活性酸素を除去する力を保つ、ことが必要となってきます。次に、日々の食生活ではどのようなことに気をつけていけばいいのでしょうか？まずは、①(夏場でも取り上げましたが)体内に冷たい飲食物は控えること、②ビタミン類、植物繊維やポリフェノール※などが含まれている(きのこ、海藻なども含む)緑黄色野菜や発酵食品の摂取、③身体の細胞や免疫物質組成に必要な(肉、魚、卵、大豆や乳製品)たんぱく質の摂取。このような生活習慣から季節の変化にも太刀打ちできる免疫力維持が図られることで生物などが生まれながらにして持っている、ケガや病気を治す力・機能の自然治癒力を高めることにも繋がります。

※…植物が紫外線や害虫から身を守るために作り出す化学成分。人間にとっては、過剰な活性酸素を除去してくれる成分で、免疫力の維持向上に繋がります。